

# 文章を読みやすくする読点の最適位置

名前 吉田 翼 学生番号 23B41604  
東京工業大学生命理工学院

## 1. はじめに

読点の位置は書き手によってかなり変化するものである。接続語や分かりやすい分の切れ目などでは読点は打ちやすいがそれ以外の時には読点の扱いは変化する。では修飾語がある場合読点の位置には読みやすくする最適位置はあるのかを考えていく。

## 2. 方法

修飾語が直後の名詞を修飾している場合、修飾語が離れた名詞を修飾している場合、2つの修飾語がある文章に対して読点の位置を変化させたものを用意する。そして日本語を母国語とする人、39名にどの文章が読みやすかったか、また読点がない場合と比較して読みやすかったかを調査し、集計する。

## 3. 結果

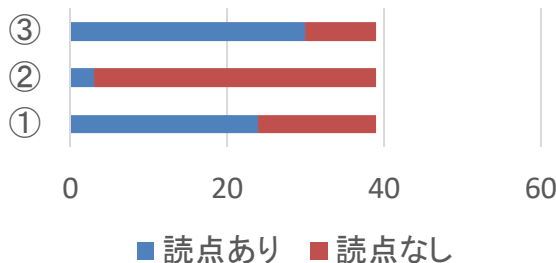


図1: 読点の位置に関するアンケート結果

アンケートを行ったら39名分のデータが集まった。その結果、次のようなことが分かった。

- ①修飾語が離れているときには読点を打つ。  
(例文: 無邪気なツボをうっかり壊した太郎を叱った。)
- ②1つの修飾語が近くにあるときは読点がない方がよい  
(例文: 高価なツボをうっかり壊した太郎を叱った)
- ③修飾語が近くに2つある場合は読点を打つ。  
(例文: 家においてある最近買ったばかりの炊飯器を壊した)

また場所としては、①の時は読点ありと選んだ人全員が**1つ目の修飾語**の後がよいとなった。②の時は**9割以上の人**が読点がない方が読みやすいものであった。③に関しては、読点ありの方が読みやすいといった9割以上の人**が1つ目と2つ目の修飾語の間に打つと読みやすい**ということが分かった。

## 4. 考察

3つの文章の読点の位置を考えてみて、修飾語の位置が変化したときに文章が読みやすくなる読点の位置があるかどうか分からないので読点の位置を変えた文章を作って調べたところ、**修飾語が離れた位置にある場合と修飾語が2つあるときにおいてそれぞれ人が読みやすいと思う読点の位置がある**というデータが取れた。その一方で修飾語が2つあるときの文章では文章では**2番目に読点がないものが読みやすい**というデータが分かった。これにより読点は打てばいいというものではなく適切な位置に打たなければ読みやすくする機能を持つ読点も、その文章自体を読みにくくしてしまうものになるように思えた。実際修飾語が近い位置にあるときに読点を打った文章では読点を打った場合よりも読点を打たない方が読みやすいということがデータとして集まった。実際桑原氏の論文によれば、「係り受け関係を明確にする読点が必要とされるのは、隣接する節ではなく距離のある述語に係るといったような、係り受けに距離がある場合である。」と言っているように離れた位置にいたるときは読点を置くことで読みやすくなるということもある。以上のことより文章の修飾語の位置によっては最適位置があるのではないかと考えられる。

## 5. おわりに

今回は修飾語がある文章において、読点の最適位置があるのかについて考えてみた。アンケートの結果を見るに、修飾語が離れた者ものや2つの修飾語があるものについては読点の最適位置があることが分かったものの、近い位置の修飾語をもつものには有効性が認められなかった。

文献:

Yuko, K. 2021 A Japanese language learner's understanding in the usage of the comma in Japanese: Longitudinal research regarding reading comprehension of academic papers. *International Education and Exchange Vol5, p1-13 Research*